

株式会社 ファミリーマート 御中

インドネシア共和国  
北ジャカルタの学校における防災能力向上プログラム

完了報告書(2015年8月1日～2016年7月31日)



2016年9月  
公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン



## 1. 事業概要

事業名	北ジャカルタの学校における防災能力向上プログラム(第2期)
対象国・地域	インドネシア ジャカルタ首都特別州北ジャカルタ市
事業期間	2015年8月1日～2016年7月31日(1年間)
報告期間	2015年8月1日～2016年7月31日(1年間)
予算	7,500,000円
受益者	直接受益者:対象小学校10校の生徒2,835名 <sup>1</sup> 、教職員169名、対象小学校周辺のコミュニティの住民802名(小学校生徒の保護者169名を含む)、行政関係者187名、その他の関係者(大学・地域のNGOを含む団体等)23名
事業目的	毎年洪水の被害を受けている北ジャカルタのチリンチン地区において、学校における活動ならびに学校周辺コミュニティとの連携を通じて、子どもたちの災害適応能力のさらなる向上と定着を目指す。

## 2. 事業の成果

本事業では先行事業(第1期:2014年3月1日～2015年4月30日)に引き続き、北ジャカルタ市チリンチン地区の小学校を対象として、地域住民を巻き込んだ避難訓練や、防災に関連するライフスキル能力強化研修、そして啓発ツールの配布を実施しました。受益者の選定過程においては、第1期の対象校を中心に災害リスクのレベルに照らして支援の必要性が高いことに加え、学校側のみでなく周辺コミュニティの住民側においても防災活動への関心・意識が高い小学校10校を選びました<sup>2</sup>。避難訓練で受益者の知識の定着や防災活動実践能力の向上、また地域住民・行政のさらなる連携を構築することを目指しました。その結果、1年間にわたる事業の中で主に以下の成果を達成しました。

- 避難訓練に向けた準備をきっかけとして、対象校10校すべてにおいて、コミュニティと共に防災計画が策定されました。避難訓練では、防災計画にある活動をコミュニティで演習することができました。また、その実践結果に基づき、さらなる計画の見直しを行いました。
- ライフスキル能力強化研修として、対象校10校の教職員とコミュニティの住民合計41名を対象に「心理的応急処置(Psychological First Aid: PFA)」と「こどもひろば<sup>3</sup>(Child

<sup>1</sup> 第2期事業の開始時に選ばれた対象校の1校である、Kasih Immanuel 小学校が、同校からの申し出により本事業への参加活動を2016年2月から停止したことを受け、同校に替えてカリバル地域に所在する Darussalam 小学校を加え、引き続き対象校を10校として事業活動を継続しました。この対象校の変更により、生徒数が2,775名から変更になりました。この変更後の対象校10校の情報については、別添資料をご参照ください。

<sup>2</sup> 事業期間中、対象校10校のうち1校が変更となりました。上記の脚注1をご参照ください。

<sup>3</sup> 「こどもひろば」とは、被災した子どもたちのために、避難所などに設置する安心・安全な空間のことで、子どもたちが被災する前に日常的に行っていた遊びや活動を行う場を提供することで、子どもたちが交

Friendly Space : CFS )」に関する研修を実施し、参加した教職員とコミュニティの住民が心理的応急措置技術の基礎を身に着け、かつ「こどもひろば」の重要性や設置方法について学ぶことができました。また、対象地域の大人と子どもを含む 298 名に消防・防火活動訓練を実施し、さらに 219 名に応急処置・衛生管理に関する研修を実施し、コミュニティの住民が災害時に必要な技術の基礎を身に着けました。これらの訓練・研修には対象校 10 校に結成された「リトル・ドクター（災害対応チーム）」の子どもたちも参加しました。

- 避難訓練およびライフスキル能力強化研修は、町内会等の住民組織のみでなく、ジャカルタ首都特別州災害対策局、北ジャカルタ市防災局、チリンチン地区行政当局、教育局、宗教省支局、保健局、軍、警察、消防署、インドネシア赤十字社等との連携協力の下で実施され、行政機関より 187 名の関係者による参加が得られました。これにより行政機関の防災活動の必要性や、実施方法に関する認識の向上および対応体制の強化に貢献しました。

当事業を通じて、子どもたちは小学校の内外で災害時の対応方法や、子どもが果たすことができる役割についての認識を深め、また子ども達をサポートする役目を担う教職員や地域住民、関係行政機関の災害対応技術や能力も向上したことから、事業目的である「子どもたちの災害適応能力の更なる向上と定着」は達成したと考えます。

### 3. 活動進捗

当事業の実施期間中に行った主な活動は以下の通りです。

#### **活動 1. コミュニティを巻き込んだ避難訓練の実施**

2016 年 1 月から 7 月にかけて、対象校とその周辺コミュニティをあげての避難訓練を実施しました。この避難訓練は豪雨時の洪水被害や火災を想定したもので、コミュニティの住民の間での役割分担と行政機関との連携に基づき、災害リスクおよび被災状況の定点観測と連絡、情報分析と警報・指示の発出、住民の避難移動、傷病者の捜索と救助、傷病者への応急処置、子どもたちへの心理的応急処置、炊き出し、防火・消火活動などの災害対応活動が行われました。なお、洪水災害の地形的影響や、各地域と防災局等の行政当局間との連携を念頭に入れ、避難訓練は対象校毎に開催するのではなく、距離の近い小学校同士をまとめ、地域毎に実施しました。

2016 年 1 月にはカリバル地域 (Al Barkah 小学校と Pantai Indah 小学校)、5 月にはマルンダ地域 (Al Ikhwan 小学校) とロロタン地域 (Ar Ruhaniyah 小学校)、また 7 月にはスンプルティムル地域 (Kampung Sawah 小学校、Al Rahmah 小学校)、カリバル地域 (Ash Shidiqin 小

---

流や自己表現をしながら子どもらしくいられる時間を取り戻し、被災による影響から立ち直るのをサポートすることを目的としています。また子どもの保護者に子どもたちが被災から受ける影響などについて情報提供も行います。

学校、Darussalam 小学校)、スカプラ地域 (Ar Ridho 小学校)、ロロタン地域 (Daarut Tauhid 小学校) の当事業対象全てにあたる 5 地域にて、合計 3 回の避難訓練を実施しました。

避難訓練が複数の町内会の協働に基づいて行われたため、その準備段階では実施日の約 1 カ月前から各種の調整会合が頻繁に繰り返されました。その結果、開催された避難訓練は、正式に登録された参加者のみでも約 1,000 人規模を動員する大規模なものとなりました。(当日は、ボランティアベースでその他多くの一般市民の方にもご参加頂くことができました。)

## 活動 2. ライフスキル能力強化研修

ライフスキル能力向上研修は当初の計画では、「心理的応急処置」「消防・防火活動」「応急処置」など複数のテーマをひとつのパッケージとしてまとめた上で、各小学校に対し研修を実施する予定でしたが、訓練実施機関や、研修後に実施される避難訓練日との日程調整の必要等から、それぞれのテーマについて 2-6 校の合同で訓練・研修を以下の通り実施しました。

開催日時	テーマ	参加者
2016 年 1 月 9 日-10 日	傷病者への応急処置研修 (インドネシア赤十字社による指導)	カリバル地域の Al Barkah 小学校と Pantai Indah 小学校 (2 校) と周辺コミュニティより計 57 名
2016 年 1 月 23 日	防火・消防訓練 (北ジャカルタ市消防隊による指導)	カリバル地域の Al Barkah 小学校と Pantai Indah 小学校 (2 校) と周辺コミュニティより計 58 名
2016 年 4 月 14 日-24 日	防火・消防訓練 (北ジャカルタ市消防隊による指導)	5 つの対象地域にある Al Ikhwan 小学校、Ar Ruhaniyah 小学校 Kampung Sawah 小学校、Al Rahmah 小学校、Ash Shidiqin 小学校、Ar Ridho 小学校、Daarut Tauhid 小学校、Darussalam 小学校 (8 校) と周辺コミュニティより計 240 名 (1 校と 1 コミュニティあたり 30 名 x 8 校)
2016 年 4 月 27 日-30 日	子どもへの心理的応急処置法および「こどもひろば」設置運営に関する研修 (セーブ・ザ・チルドレンによる指導)	対象 10 校の教職員および周辺コミュニティより計 41 名
2016 年 7 月 21 日-27 日	傷病者への応急処置研修 (インドネシア赤十字社	スンプルティムル地域、カリバル地域、マルンダ地域にある Kampung

	による指導) 衛生管理研修 (ヘルスポスト職員による指導)	Sawah 小学校、Al Rahmah 小学校、Ash Shidiqin 小学校、Ar Ridho 小学校、Daarut Tauhid 小学校、Darussalam 小学校(6校)と周辺コミュニティより計 219 名
--	-------------------------------------	--

研修後に実施された各避難訓練の場において、参加者はこれらの訓練・研修で学んだライフスキル能力を活かしつつ実践に挑むことができました。

### 活動 3. 啓発ツールの配布

昨年に引き続き、カレンダー等の啓発ツールの作成を行いました。特に昨年より好評のカレンダーは 2,000 部を印刷し、対象校およびその周辺コミュニティの連携組織に配布しました。上記に加え、広報の一環として、セーブ・ザ・チルドレンは北ジャカルタ市のローカルテレビ局「DAAI TV」<sup>4</sup>との協力の下、「安全な学校づくり」を題材とした啓発ビデオの作成に取り組んできました。その中で、Pantai Indah 小学校の防災への取り組みも紹介されています。このビデオは下記の URL より視聴することができます(本事業について紹介されているのは、4分20秒-6分03秒の部分です)。

[https://youtu.be/N\\_uIHA2a0nY](https://youtu.be/N_uIHA2a0nY)

## 4. 受益者の声

イワン・イリヤンシャさん(チリンチン地区カリバル地域第 13 町内会長、43 歳・男性)



イワンさんはオートバイ製造工場に勤務する 3 児の父親で、町内会の会長に着任してから 1 年半になります。「人間は社会的な存在である」との信念をもつイワンさんは、地域住民の自発的なコミュニティ清掃活動などを推進してきました。

「私が町内会長になる前にカリバル地域東部に洪水があり、皆で町内の片付けに取り組みました。しかし洪水や高波の被害に対応するには、地域の清掃活動や健全な生活環境の維持以上の努力が必要で、少人数の力では太刀打ちできないと我々も段々気づいてきました。社会全体で様々な立場の人々が防災に関して十分な知識を得る必要があるのです。そのため、セーブ・ザ・チルドレンがこの事業で地域にもたらした防災活動の価値は計り知れず、地域の皆が大変感謝しています。」

## 5. 今後の展望

本事業開始前にはチリンチン地区には具体的な防災体制づくりへの取り組みはありませんでした。例年洪水が起きているにも関わらず、各種の防災関連研修や避難訓練へ参加は多くの住民

<sup>4</sup> DAAI TV は、社会・人文的テーマに特に焦点をあてた番組を取り扱うローカルテレビ局です。(同局のホームページの URL: <http://www.daaitv.co.id>)

にとって初めての経験でした。本事業の避難訓練を通じて、行政・地域社会の双方で防災対応体制づくりへの機運が高まり、地域社会との連携に基づいた防災計画が各対象校で作成されたことは、今後の同国における防災計画・体制づくりのひとつのモデルとなっていくことが期待できます。セーブ・ザ・チルドレンでは、今後もこうした地域レベルの防災体制づくりを、北ジャカルタ市が正式に認定・推進するよう、市長・防災局担当者等には働きかけていきます。

## 6. 収支報告

項目	予算金額	支出金額
コミュニティを巻き込んだ避難訓練の実施	2,000,000 円	1,845,630 円
緊急災害対策にかかるライフスキル能力向上研修	2,500,000 円	2,312,023 円
啓発教材の配布	300,000 円	274,551 円
広報費	200,000 円	182,449 円
インドネシア事務所運営サポート費	1,000,000 円	1,188,263 円
東京本部管理費	1,500,000 円	1,500,000 円
<b>合計</b>	<b>7,500,000 円</b>	<b>7,302,916 円</b>

今期事業の収支においては為替変動の影響および地域毎にいくつかの学校をまとめた形で活動を実施したことによるコスト節減から、余剰金が計 197,084 円発生しました。(インドネシア共和国における防災事業は本事業をもって終了したため、この余剰金の取り扱いにつきましては、後日ご相談させていただきたく存じます。)



## 7. 活動写真



避難訓練開始時に開催された、コミュニティからの参加者に向け事前オリエンテーション  
(2016年1月)



避難訓練時、対象校の生徒の引率にあたる  
教員(2016年7月)



豪雨の想定下の訓練で、避難先に向かう  
子どもたち(左)と炊き出し風景(右)  
(2016年5月)



避難訓練時、応急処置の演習に  
あたるリトル・ドクター  
(2016年7月)



避難訓練時、応急処置の演習にあたる  
コミュニティの住民ら  
(2016年7月)



モニタリング・ポイントから寄せられた被災リスクや状況に関する情報を集約・更新する情報マネジメント拠点  
(2016年1月)



消防・防火訓練の様子  
(2016年4月)



洪水の被害に備え、教室にある教科書を棚の高い段に移す生徒たち  
(2016年1月)



別添資料

北ジャカルタの学校における防災能力向上プログラム(第2期)

事業対象校一覧(2016年6月現在)

学校名	地域	生徒数
Al Barkah 小学校	カリバル	251
Ash Shiddiqin 小学校	カリバル	126
Pantai Indah 小学校	カリバル	402
Darussalam 小学校	カリバル	166
Al Ikhwan 小学校	マルンダ	181
Darul Tauhid 小学校	ロロタン	241
Ar Ruhaniyah 小学校	スンプルティムル	292
Al Rahmah 小学校	スンプルティムル	442
Kampung Sawah 小学校	スンプルティムル	365
Ar Ridho 小学校	スカプラ	369
<b>合計</b>		<b>2,835</b>